



## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2020/04/28  
 SDS整理番号 04155350

製品等のコード : 0415-5350、0415-5370

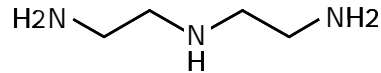
製品等の名称 : ジエチレントリアミン

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
 繊維関係(防しわ剤、界面活性剤、染料固着剤)、紙の湿潤強化剤、  
 農薬関係(殺菌剤、殺虫剤、除草剤)、キレート剤、コーティング材、接着剤、  
 イオン交換樹脂、ゴム薬品、ロケットの液体燃料、エポキシ樹脂硬化剤 など



### 2. 危険有害性の要約



#### GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分外
自然発火性液体	: 区分外
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分4
急性毒性(経皮)	: 区分4
皮膚腐食性・刺激性	: 区分1A
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 区分1
呼吸器感受性	: 区分1
皮膚感受性	: 区分1
生殖毒性	: 区分1B
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	: 区分3
水生環境慢性有害性	: 区分外

注意喚起語 : 危険

#### 危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)  
 皮膚に接触すると有害(経皮)  
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ  
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 水生生物に有害

#### 注意書き

【安全対策】  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。  
 取扱い後は、よく手を洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。  
 環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察、手当を受けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	ジエチレントリアミン (別名) N - ( 2 - アミノエチル ) エタン - 1 , 2 - ジアミン、 イミノビス(エチレン)ジアミン、 1,4,7-トリアザヘプタン、 2-[(2-アミノエチル)アミノ]エタンアミン、 2,2'-イミノビス(エタンアミン)、 ビス(2-アミノエチル)アミン、 3-アザペンタン-1,5-ジアミン、 2,2'-イミノビス(エタン-1-アミン)、 2,2'-イミノビスエタンアミン、 2,2'-イミノジ(エタンアミン)、 1,5-ジアミノ-3-アザペンタン、 2,2'-イミノジエタンアミン、DETA (英名) Diethylenetriamine、Iminobis(ethylene)diamine、 1,4,7-Triazaheptane、2,2'-Iminobis(ethanamine)、 Bis(2-aminoethyl)amine、3-Azapentane-1,5-diamine、 2,2'-Iminobis(ethane-1-amine)、2,2'-Iminobisethanamine、 2,2'-iminodi(ethanamine) (EC名称)、 1,5-Diamino-3-azapentane、2,2'-Iminodiethanamine、 1,2-Ethanediamine、N1-(2-aminoethyl)- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	ジエチレントリアミン、 97.0%以上
化学式及び構造式	:	NH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> NHCH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> NH <sub>2</sub> 、 C <sub>4</sub> H <sub>13</sub> N <sub>3</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	103.17
官報公示整理番号	:	(2)-159
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	111-40-0
EC No.	:	203-865-4
危険有害物質	:	ジエチレントリアミン ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 225 表示対象物 政令番号 225 ・毒劇法 劇物「N - ( 2 - アミノエチル ) エタン - 1 , 2 - ジアミン及びこれを含む製剤」 ・消防法 危険物第4類引火性液体 第三石油類 水溶性

## 4. 応急措置

吸入した場合	:	直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 呼吸に関する症状が出た時は、医師に連絡する。 呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。 気分が悪い時は、医師の診療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに皮膚を流水、シャワーで洗う。

- 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。  
皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。  
汚染された作業衣は作業場から出さない。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合：直ちに医師に連絡する。  
直ちに、水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。  
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。  
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。  
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。  
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。  
直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。  
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。  
嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。  
嘔吐後、再び水を飲ませる。  
意識がない時は、何も与えない。  
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：  
吸入：咽頭痛、咳、灼熱感、息苦しさ。症状は遅れて現われることがある(肺水腫の症状は2~3時間経過するまで現われないことがしばしばあり、安静を保たないと悪化する。従って、安静と経過観察が不可欠である。)  
皮膚：痛み、重度の皮膚熱傷  
眼：痛み、重度の熱傷、視力喪失  
経口摂取：灼熱感、腹痛、ショック状態あるいは虚脱
- 医師に対する特別注意事項：本物質により喘息の症状を示した者は、以後、本物質に接触しないこと。ばく露の程度によっては、定期検診を勧める。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤：本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。  
粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤：棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
- 特有の危険有害性：引火点(97℃)以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。  
燃焼で熱分解すると、窒素酸化物を含む有毒で腐食性のガスを生じる。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。  
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：  
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
- 回収、中和：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材

- 二次災害の防止策
- ： 危険でなければ漏れを止める。
  - ： 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
  - ： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
  - ： 周辺の発火源を速やかに取除く。
  - ： 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
- ： 裸火禁止。
  - ： 引火点(97 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
  - ： ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
  - ： 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
  - ： 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
  - ： 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
  - ： 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取扱いについては届出の必要はない。
  - ： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
  - ： 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
  - ： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項
- ： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
  - ： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
  - ： 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
  - ： 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
  - ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - ： 取扱い後はよく手を洗う。
  - ： 液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。
- 接触回避  
保管
- 技術的対策
- ： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
  - ： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
  - ： 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
  - ： 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
  - ： 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件
- ： 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
  - ： 容器を密閉して冷暗所に保管する。
  - ： 遮光容器に入れ、一定の場所を定めて、施錠して保管する。
  - ： 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
  - ： 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
- 混触危険物質  
容器包装材料
- ： 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
  - ： 強酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過氧化物、過塩素酸塩など)、強酸
  - ： ガラスなど。
  - ： アクリル樹脂、塩化ビニル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。
  - ： 銅、銅化合物、亜鉛メッキ、鉄及びニッケルを腐食する。
  - ： アルミニウム、ステンレス鋼、すずメッキした鉄は、腐食し難い。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
- ： 設定されていない。
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)：
- 日本産衛学会(2019年版) 設定されていない。
- ACGIH(2019年版) TLV-TWA 1ppm 経皮吸収あり
- 設備対策
- ： 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
  - ： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具
- ： 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
- 手の保護具
- ： 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。
- 眼の保護具
- ： 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
- ： 長袖作業衣を着用する。
  - ： 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策
- ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - ： 取扱い後はよく手を洗う。

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	無色～黄色の粘調な吸湿性液体
臭い	特異臭（アミン臭）
pH	強アルカリ性 pH12超（10%水溶液、20）
融点	-39
沸点	207
引火点	97（密閉式）、102（開放式）
爆発範囲	下限 1vol% 上限 10vol%
蒸気圧	0.37 hPa(20)
蒸気密度（空気 = 1）	3.56
比重	0.947～0.960（20/20）
溶解度	水と任意の割合で混和する。 エタノール、アセトンと任意の割合で混和する。 炭化水素系溶剤に混和する。 ジエチルエーテルに混和しない（不溶）。
オクタノール/水分配係数	log Pow = -1.3
自然発火温度	358
分解温度	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
粘度	7.14mPa・S（= 7.14cP）（20）
GHS分類	
引火性液体	引火点97（closed cup）（ICSC（1996））であり、93 を超えることから、区分外とした。
自然発火性液体	発火点は358（ICSC,1996）であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常取扱条件において安定である。 吸湿性がある。
危険有害反応可能性	光のばく露により、徐々に分解する。 酸化剤、硝酸、有機窒素化合物と激しく反応する。 高温の表面、火花又は裸火により発火する。 強く加熱すると爆発性混合気が生じる。 水溶液は強塩基で、酸と激しく反応し、腐食性を示す。 水と混合する時は、腐食性の蒸気が放出されるので注意する。 水の存在下で、多くの金属を侵す。 銅、銅化合物、亜鉛メッキ、鉄及びニッケルを腐食する。 アルミニウム、ステンレス鋼、すずメッキした鉄は、腐食し難い。
避けるべき条件	高熱、日光
混触危険物質	酸化剤、硝酸、有機窒素化合物
危険有害な分解生成物	窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口 ラットを用いた経口投与試験のLD50値 1,080 mg/kg（ACGIH（7th, 2001）、（環境省リスク評価第11巻（2013）、（PATTY（6th, 2012））、約1,140 mg/kg、1,539 mg/kg、約1,800 mg/kg、1,950 mg/kg（SIDS（2002））に基づき、区分4とした。 飲み込むと有害（経口）（区分4） 経皮 ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値は、約672 mg/kg、1,040 mg/kg（SIDS（2002））、1,090 mg/kg（ACGIH（7th, 2001））、環境省リスク評価第11巻（2013））であり、1件が区分3、2件が区分4に該当する。これらのデータから分類ガイダンスに基づき、該当数の多い区分4とした。 皮膚に接触すると有害（経皮）（区分4） 吸入（蒸気）データ不足のため分類できない。 吸入（ミスト）データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	環境省リスク評価第11巻（2013）、NITE初期リスク評価書（2005）のヒト健康影響についての記述、及びウサギを用いた皮膚刺激性試験結果の「強い腐食性」、「腐食性」との記述（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））がある。さらに、本物質は、EU DSD分類において「C; R34」、EU CLP分類において「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。以上の情報に基づき、区分1Aとした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1A）
眼に対する重篤な損傷・刺激性	

- ： ヒト健康影響のデータ（環境省リスク評価第11巻（2013）、ACGIH（7th, 2001））、及びウサギを用いた眼刺激性試験で原液を投与した試験結果（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））において「強度刺激性」「強腐食性」「視力喪失」との記述がある。さらに、本物質は皮膚腐食性物質であり、EU DSD分類において「C; R34」、EU CLP分類において「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。以上の情報に基づき、区分1とした。
- 重篤な眼の損傷（区分1）
- 呼吸器感作性： ヒトに対する健康影響のデータとして、職業ばく露による気道に対するぜんそく様のアレルギー反応の発症が報告されているとの記述（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001））との記載から、呼吸器感作性があると考えられるため、区分1とした。
- 皮膚感作性： 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ（区分1）モルモットを用いたマキシマイゼーション試験での陽性の結果（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））、及び本物質を取り扱う作業員に対するパッチテストで陽性の結果がみられたとの報告等（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001））から、皮膚感作性があると考えられる。さらに、本物質は、EU DSD分類において「R43」、EU CLP分類において「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。以上の情報に基づき、区分1とした。
- 生殖細胞変異原性： アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ（区分1）分類ガイダンスの改訂により、「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。
- 発がん性： すなわち、In vivoでは、マウスの骨髄細胞を用いる小核試験で陰性である（NITE初期リスク評価書（2005）、環境省リスク評価第11巻（2013）、SIDS（2002））。さらに、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いる遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験で陰性である（NITE初期リスク評価書（2005）、環境省リスク評価第11巻（2013）、SIDS（2002））。
- 生殖毒性： 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- ： NITE初期リスク評価書（2005）及び環境省リスク評価第11巻（2003）の記述から、ラットにおける生殖発生毒性試験（OECD TG 421）において、親動物に他の毒性作用がみられない用量下で生殖発生への影響（妊娠期間の延長、胚・胎児死亡の増加など）がみられていることから、分類ガイダンスに従い、区分1 Bとした。
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれ（区分1B）
- 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）： データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）： データ不足のため分類できない。
- 吸引性呼吸器有害性： データなし（化学肺炎の情報なし）

## 12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性： 甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50=16mg/L（SIDS、2002）から、区分3とした。
- 水生環境急性有害性： 水生生物に有害（区分3）慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BODによる分解度：0%（既存点検、1982））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC = 5.6 mg/L（SIDS、2002）であることから、区分外となる。
- 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BODによる分解度：0%（既存点検、1982））、魚類（ウグイ）の96時間LC50 = 248 mg/L（SIDS、2002）であることから、区分外となる。
- 以上の結果から、区分外とした。
- オゾン層への有害性： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考) 燃焼法  
 可燃性の溶剤等と共に、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号：154

## 国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2079  
 Proper Shipping Name : DIETHYLENETRIAMINE  
 Class : 8 (腐食性物質)  
 Sub Risk : -  
 Packing Group : II  
 Marine Pollutant : No (非該当)  
 Limited Quantity : 1L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2079  
 Proper Shipping Name : Diethylenetriamine  
 Class : 8  
 Sub Risk : -  
 Packing Group : II

## 国内規制

陸上規制情報 (毒劇法、消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2079  
 品名 : ジエチレントリアミン  
 クラス : 8  
 副次危険 : -  
 容器等級 : II  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 少量危険物許容量 : 1L

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2079  
 品名 : ジエチレントリアミン  
 クラス : 8  
 副次危険 : -  
 等級 : II

少量輸送許容量

許容量 : 0.5L

## 特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。  
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。  
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。  
 他の危険物のそばに積載しない。  
 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第225号「ジエチレントリアミン」、  
 対象重量%は 0.3)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物

	(政令番号 第225号「ジエチレントリアミン」、 対象重量%は 0.1)
	(別表第9)
化審法	: 旧第二種監視化学物質 No.382 (官報公示日:2000/09/22) 「N-(2-アミノエチル)-1,2-エタンジアミン (別名ジエチレントリアミン)」
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 非該当
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体、指定数量4000L、 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒物及び劇物取締法	: 劇物「N-(2-アミノエチル)エタン-1,2-ジアミン及び これを含有する製剤」、包装等級III
船舶安全法	: 腐食性物質(危規則第2,3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質 (施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L以下(日間平均 120mg/L以下) 「窒素の含有量」 〔排水基準〕120mg/L以下(日間平均 60mg/L以下) (注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合は それに従うこと。
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制(別表第1の16項) 第29類 有機化学品 HSコード(輸出統計品目番号、2020年4月1日版):2921.29-000 「アミン官能化合物-非環式ポリアミン及びその誘導体 並びにこれらの塩-その他のもの」

## 16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

## 取扱注意事項:

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

## 参考文献:

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。